

自作ヨット LA BRISA 初の海峡越え

2020 11 27-28



経緯

La Brisa号（小型クルージングヨット、全長6.4m、総トン数1.6トン、定員6名）は三菱重工OB相馬和夫氏の設計および施工のもと、2018年4月に着工し、2019年9月竣工した。

以来パサージュ 琴海ゴルフコース16番ホールから見下ろす『なかんだ湾』を母港とし、大村湾にて試運転および航海訓練を積み重ねてきた。

その集大成として、今般初の海峡越えに挑戦する運びとなった。

その記録を取りまとめ、長機会に投稿するものである。

ここが母港です



航海計画と実績

乗員：相馬（キャプテン）小椋（クルー）

初日07:00出港、機走にて西海橋を目指す

09:30潮止まりを待って西海橋海峡入り

10:30佐世保湾を出る、

その後大島廻りをクルージング

16:00面高港入港し係留、オーバーナイト

翌日08:00面高出港

初日と逆コースで、10:00の潮止まりに

西海橋海峡通過し、母港を目指す

13:00母港着という予定であった

しかし佐世保湾を出てみると大島付近の波風強く、

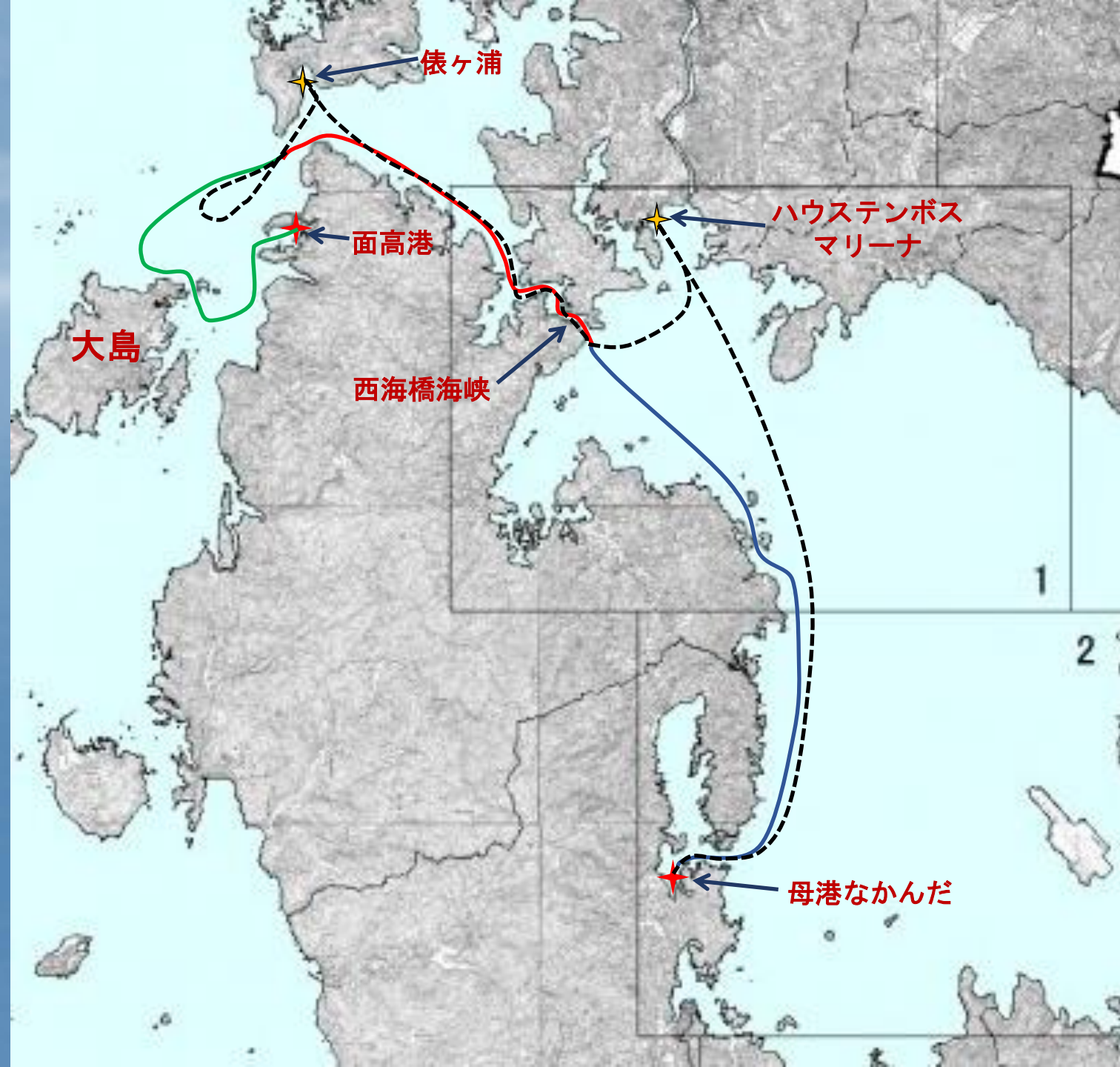
面高港には行けても翌日帰れなくなる恐れありと

判断し、世保湾内に戻り俵ヶ浦港に一旦停泊、

潮を待って西海橋海峡通過し、

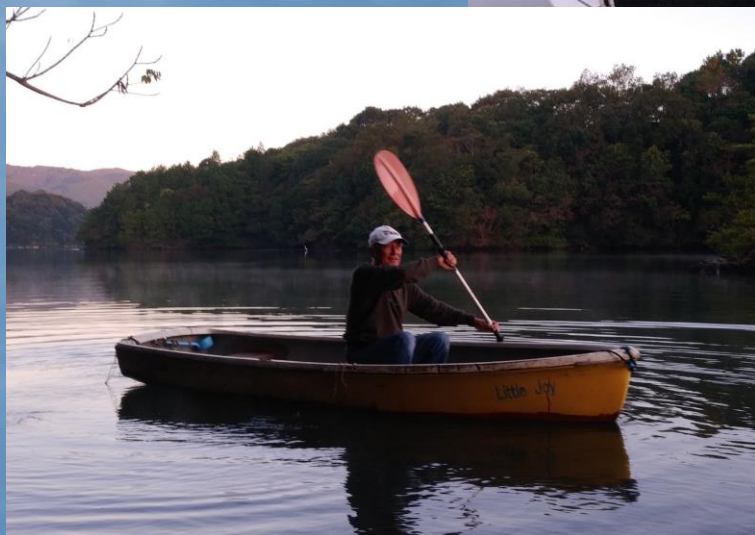
ハウステンボスマリーナにてオーバーナイト、

翌朝母港に向けて出港し10:00母港に帰港した。



航海記録 出港準備 11月17日早朝

岸から約50m先に繫留しているLa Brisaには手漕ぎ船で乗り移ります。ヨットの背景がパサージュ琴海16番ホールです。



航海記録 出港

07:00出港

ほぼ無風、機走（エンジン走）でいくつか小島を抜けて大村湾に出ます。



相馬キャプテン、68歳

クルーの小椋君です。

48歳、元一工作、現マリンマシナリー

航海記録 大村湾を北上

日の出を拝んで航海の安全を祈ります。
機走5ノット、3時間弱で西海橋海峡入口
が近づいてきました。



航海記録 西海橋海峡通過

砂利運搬船から『じゃまだ、そこどけ』の警告汽笛。慌てて進路を変えます。

海峡を越えると穏やかな佐世保湾です。



潮どまりを狙って海峡入りしたのに、部分的な渦が残っていて舵を取られそうになります。結構スリリングです。エンジンが頼りです。



航海記録 佐世保湾通過

穏やかな佐世保湾ですが元佐世保
鎮守府、現海上自衛隊主力基地

イージス艦金剛と遭遇しました。

岸には米軍の上陸強襲艇の格納庫、
近くには我々を監視しているような警
戒船が浮かんでいました。



航海記録 佐世保湾を出て大島を目指す

佐世保湾を出ると北風6~7m/秒の良風、セールを揚げて大島目指して帆走開始。

暫く進んだが波風増すとの予報。

目的地の面高港には到着できるが翌日の向い風、波高での航海は危険と判断し佐世保湾に引き返すこととしました。

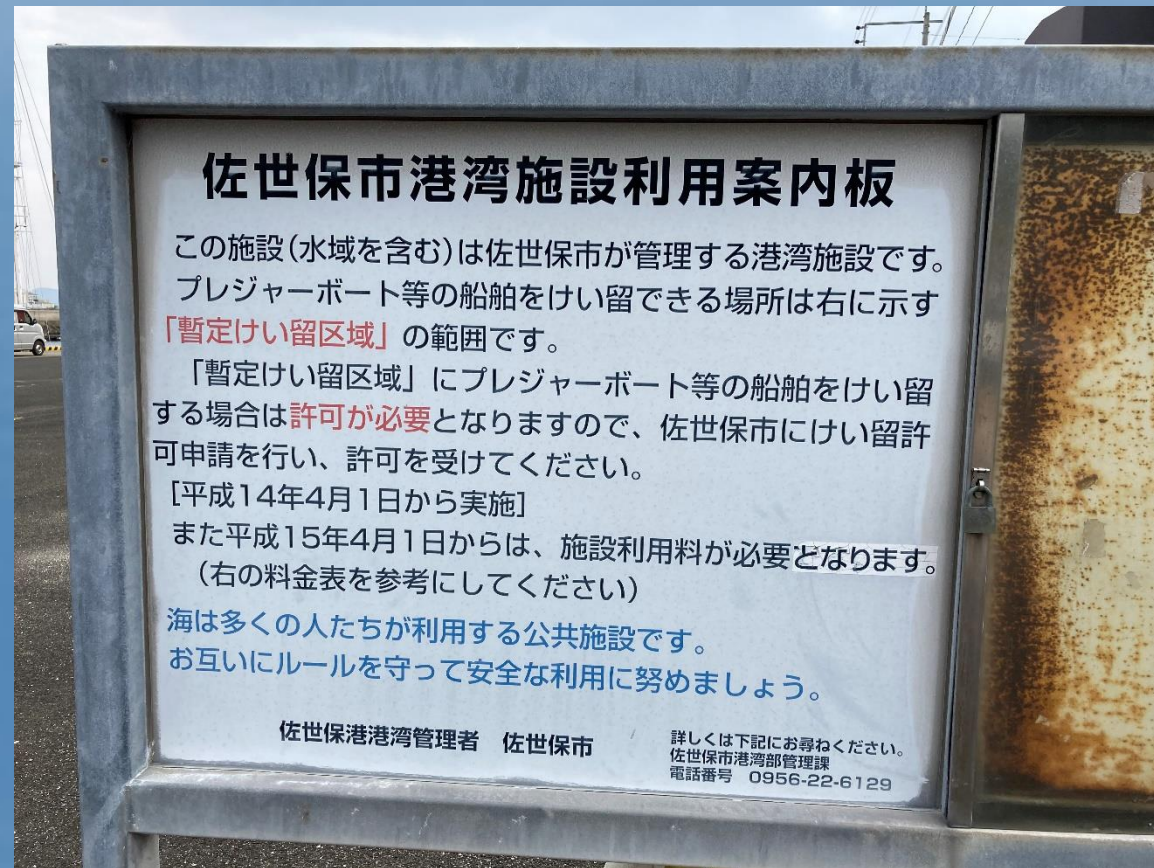
キャプテンの最優先責任は安全の確保です。



航海記録 俵ヶ浦港に一時入港

風避け、潮止まり時間待ちのために入港した俵ヶ浦港は佐世保市を越えた半島の最先端、長崎ジゲモンでもめったに来ないところ。私たちも初めての地でした。

殆ど管理されていないことを表す
利用案内板が掲げてありました



航海記録 俵ヶ浦港でひと休み

まずはビールで乾杯！！

近くを散策。まさに絵にかいたような寒村。丘の上には漁の安全祈願？の天満宮。山頂付近には、日露戦争～太平洋戦争時代の佐世保湾を守る砲台や見張り台の遺跡。

唯一の活動は養殖カキの収穫作業。次に来るときは網焼きセットを持参しよう！



遺産No. 11 ★11 佐世保要塞及び関連施設
佐鎮 11

旧陸軍佐世保要塞俵ヶ浦地区

Sasebo Fort of Former Army in the Tawaragaura Area

日本遺産
鎮守府
横須賀・呉・佐世保・舞鶴
日本近代化の躍動を体感できるまち

佐世保に軍港が設置されると、その防衛のため陸軍により佐世保要塞が設置された。要塞所属の砲台は明治34年(1901)までに佐世保港口付近を中心に計7ヶ所が築かれ、佐世保市内に要塞司令部と要塞砲兵連隊が置かれた。佐世保要塞は日露戦争や第一次世界大戦にて戦闘配置についていたが、実戦を経験することはなかった。その後、アナログコンピュータ式照準装置である88式海岸射撃具の訓練施設や地下式弾薬庫などが整備されたが、守勢より攻勢を重視する日本軍の戦略思想の転換により必要性が薄れ、昭和11年(1936)に廃止され、長崎要塞に合併された。

When Sasebo Naval Port was opened, Sasebo Fort was established by the army to defend the port. By 1901, seven batteries belonging to Sasebo Fort were built mainly around Sasebo Port, and the headquarters and artillery regiments of Sasebo Fort were established in Sasebo city. Sasebo Fort was at active stations during the Russo-Japanese War and World War I, however it never had an actual fight. A training facility was also built for type88 shooting equipment, which was an analog-computer sighting system used on the sea shore. A bullets warehouse was also built underground. However, their needs became lower as Former Japanese Army changed their strategic thinking and started to consider that offense was more important than defense. That was why Sasebo Fort was closed and merged into Nagasaki Fort in 1936.

平成29年(2017)3月31日 佐世保市教育委員会

航海記録 俵ヶ浦港から海峡越えてハウステンボスへ

海峡中央にある弁天島、潮どまりの時刻だが海面がざわついて局部的な渦があることが分かります。

海峡を出ると追い風で帆走、今回の航海での最高速度7ノットが出ました。しかしセールを畳むときに手間取りメインセールが一部破れてしまいました。(帰港後撮影)



航海記録 ハウステンボスでのオーバーナイト

ハウステンボスマリーナのビジター棧橋に接岸

トイレ、シャワー設備がありハウステンボスの無料ゾーン（レストラン、売店）には行くことができます。

係留費用は一泊で2300円でした。

ハウステンボスマリーナ（資料写真）

ここに接岸しました。



航海記録 ハウステンボスでのオーバーナイト 続き

キャビン内で豪華な夕食

液体燃料をたっぷり流し込んだ後は寝袋にくるまって熟睡



航海記録 ハウステンボスから母港へ

帰路は追い風を受けて快調に機帆走。
約3時間で無事に母港に帰ってきました。



THE END

次のチャレンジは、

面高？平戸？それとも五島？……乞うご期待！！